

さて、この章ではまず、「はじめに」のところで触れた田池留吉という人を紹介したいと思いますので、田池留吉氏自身が綴った次の文章を読んでみてください。A4の用紙二枚の分量です。それぞれに、「私の仮説」「直感」という表題が付いています。

田池留吉氏が、これまで三十年余りの年月の中で、誠心誠意伝え続けてくれたことが、そこにみんな書かれています。

①「私の仮説」

私は、直感的に物事の本質をとらえようとする傾向があります。

意識についても、「初めに意識ありき。意識は愛、愛は波動、エネルギー、愛は永遠、無限、無形にしてパワー、愛は確実に仕事をしていく」と仮説を立てます。

私は、直ちに仕事にかかります。真実の追求が、我が人生となっていきます。

私の仕事は、実験と体験、そして実証と確信を経て「私は愛です。あなたも愛です。一つ」と発信していくことと心得ます。私の仕事は、今、順調に捗はかどっています。死ぬまで元気で仕事をしていきます。今の私の心は、喜びと幸せとありがとう、ありがとうで一杯です。

すべてが愛、存在も現象もすべてが愛です。意識が人間というもの。もろもろの形を持った時から、人間は肉を本物とする思いを徐々に大きくしてきました。現時点では、地球人類の殆ほとんどは肉を本物とする思いで固まっています。真実が全く見えなくなってしまっているのです。ますます遠的な状態になっています。

中心は愛です。すべては中心に帰ろうとしています。本来の求心的な状態に戻そうと愛のエネルギーは働いています。意識は流れています。求心

的が真、遠心的は偽。遠心的なエネルギー、マイナスのエネルギーを、求心的なエネルギー、プラスのエネルギーに変えようと意識は確実に流れています。次元移行に向けて順調に流れています。

愛は、愛を捨て去ったものにも、忘れ去ったものにも、常に愛のエネルギー・波動を伝えています。愛に帰ってくるように、求心的であるように、マイナスの現象として伝えています。従ってマイナスの現象は実はプラスの現象なのです。

マイナスの現象をマイナスととらえれば、さらにマイナスの現象となっていくのですが、愛の目覚めへの現象、プラスの現象ととらえれば、プラスの現象と変わっていくのです。

愛は愛から出て愛に帰っていくのです。地獄とは愛を忘れ去り捨て去った人間が作り上げた世界です。それでも愛は愛の目覚めへと流れています。転生は愛の目覚めへの旅路とでも言いましょうか、壮大な営みです。

愛は頭では分かりません。心でしか分かりません。心を見ていきましょう。正しい瞑想を重ね、日常化していきましょう。それしかありません。決意と実践が重要です。

宇宙に向けて語り掛けていきましょう。発信していきましょう。

「あなたは愛です。私もあなたも愛です。一つです。」

②「直感」

直感「初めに意識ありき。意識は愛、愛はエネルギー、波動、パワー、エネルギーは仕事をする。愛は無限、永遠に存在する」は、どうしてなのか。

私が二十歳前後の頃、マックス・プランク著「自然科学と宗教」を使ってドイツ語の授業を受けた。宗教は「はじめに神」が、科学は「後に神が」と述べてあったと思います。また、当時、若い者の間で、「宗教と科学は両立するか」をテーマにして盛んに討論が行われていました。しかし、私は、

どちらかと言うと宗教的な生き方をしていました。聖書、般若心経などがいつも手元にありました。

四十七歳が転機になりました。自分の思いが声となって響いてきました。「私が説いてきた愛は贗物だ」と。全く白紙に。そして、母親の反省、瞑想となっていくきました。その時から、何か自分が知りたいことが、真実が、分かってくると思うようになってきました。そして、直感がとなってきました。後は、耳を傾けてくれる人がいれば話していきました。そして、仮説、実験、実証、確信と進んでいきました。

現在は、どうしても意識の転回と愛の覚醒をと心から思っています。死ぬまで、そして、死んでも正しい瞑想と愛のエネルギーの確認と愛の覚醒を伝えていこうと思っています。

意識の流れを確認してください。次元移行を共に果たしていきましょう。「あなたは意識、愛である」ことを確信する道を、ひたすらに進んでいっ

てください。

「私の仮説」「直感」の文章を読まれてどうでしたでしょうか。難解な言葉は何一つ使われていませんが、中身、内容はずっしりと重いです。

田池留吉氏とともに、十年、二十年、三十年と学んでこられた人達は別として、初めてこれらの文章を読んだ人達や、田池留吉氏について、そして学びのことについて、殆ど^{ほとんど}知らない人達にとつては、文中、「肉」「意識の流れ」「次元移行」「意識の転回」「愛の覚醒」「正しい瞑想」「宇宙に向けて語り掛ける」という言葉や表現は、少々勝手が違うという感は否めないかもしれません。しかし、そういうことは、読み進めていってくだされば、段々に自分の中でなじんでくると思います。

まずは、本書をざっくりと読んでみてください。一つの章の中で、一行開

けて文章を区切り、文頭を大きく太字で記しています。そのうちどの箇所でも、何か心に感じるところがあれば、そこを何度も、何度も読み返してください。

できれば本書の他に、「意識の流れ」「意識の転回」「磁場と反転」「あなたは愛です」等の書籍も活用して、本書の内容をぜひ心で分かっていたきたいと思つています。

そういうことですので、初めて本書と出会う人で、前記の文章の中身、内容が、自分の心の中にストレートに入ってくる人がいるとは、率直なところ期待しておりません。

仮にそういう人で、この文章を読んだだけで、うーんなるほどと頷うなずき、本当に心から共鳴できる人であるならば、きっとその人に注目していくでしょうが……。

そうかと言って、そんなに難解なことではないんです。犬や猫などの人間以外の生きとし生けるものはみんな知っていることなんです。

ただ、人間は、頭で考えますから、その分、真実を遠ざけているだけのことでです。

先ほど田池留吉氏とともに、十年、二十年、三十年と学んでこられた人達と書きましたが、その人達の中にも、まだまだ頭を回している人達を見受けます。学びの内容を頭で理解しようとするのです。それでは田池留吉氏が本当に言わんとするところは絶対に分かりません。

頭ではなく、心で分かってくださいということなのですが、私達はどうしても頭を優先させてしまう傾向にあります。

文中にもありましたが、本当のことは私達の頭では絶対に分かりません。しかしながら、正しい瞑想というものを重ねていけば、老いも若きも、男も女も、国籍がどうであれ、肌の色がどうであれ、人間みんな分かることなんです。ただ、正しい瞑想を知らないから、あるいは、正しい瞑想ができないから、この文章の本身、内容を、本当に心から感じて知っていくことができないと

いうことになってきます。

当然、その人達は、今現在不幸なんです。たとえば、巨万の富があり、権力、知力等に恵まれた状態であっても不幸です。一番肝心な自分とは何かを知らないからです。

この辺りのことをご理解いただくことはなかなか難しいと思いますが、それを重々承知のうえで、こうして長い年月ともに学びを進めてきた人達も、今初めてこんな世界があることを知った人達も、みんな、みんないっしょに、自分達の本質である愛に目覚めていこうということなんです。

目覚めていきましようとか誰か一人が呼び掛けているのではなくて、そういう方向に、今、粛々と流れている「意識の流れ」というものがあることを田池留吉氏は伝えてくれました。

この田池留吉という人について、一介の老人とだけ紹介しましたが、ここで、もう少し付け加えておきます。